

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



合田 直弘

1月23日に発表された「ワールドベストレースホースランキング2023」で、全米年度代表馬に選出されたコーディーズウィッシュと横並びで、ダートのカテゴリーでは世界首位となったホワイトアバリオ(牡5、父レースデイ)が今月のこのコラムの主役である。

19年3月18日にケンタッキーで生まれたのがホワイトアバリオだ。叔父にG3アールシンドガスプリント(d1200)など2重賞を制したクールカウボーイがいて、従兄弟にG2バーボンS(芝8.5F)に勝ち、G1ホープフルS(d7F)で3着となったムタサベクがいるという、ますますの血統背景を持っている。一方で父のレースデイは、ホワイトアバリオの母キヤッチングダイヤモンズに交配した18年の種付け料が6千ドル(当時のレートで約65万円)というマイナーな種牡馬で、21年12月に韓国に輸出されている。

父の地味さが嫌われたのか、ホワイトアバリオのマーケットにおける評価は低く、1歳の1月に上場されたOBSウインターセールでは7500ドル(当時のレートで約83万円)、2歳3月に上場されたOBSマーチセールでは4万ドル(当時のレートで約44.1万円)という、後のG1勝ち馬としては超のつくお値打ち価格で購入されている。

カルロス・ペレス厩舎から2歳9月にデ

ビュー。ガルスフトリムパークのメイドン(d6.5F)を6.3/4馬身差で制して緒戦勝ちを飾ると、クリントン・コーネット氏のC2レーシングステアブル社が同馬を購買し、サファイア・ジョセフ厩舎に転厩となった。

3歳初戦となったG3ホーリーブルS(d8.5F)を制して重賞初制覇を飾ると、続いて出走したG1フロリダダービー(d9F)も制し、G1初制覇を果すとともにG1ケンタッキーダービー(d10F)の有力候補の1頭となった。だが以降、ホワイトアバリオの成績は伸び悩むことになった。

G1ケンタッキーダービーは16着に大敗。格下相手と見られたG3オハイオダービー(d9F)も2着に敗れると、G1ハスケルS(d9F)、G1ペンシルヴェニアダービー(d9F)、G1シガーマイル(d8F)、G1ヘガサスワールドC(d9F)と、いずれも3着以下に負け続けた。ホワイトアバリオがようやくウイナーズサークトリムパークで行われた条件戦(d7F)だった。

この後、ホワイトアバリオはサファイア・ジョセフ厩舎を離れることになった。レース中や調教中に故障するジョセフ厩舎の管理馬が複数出て、一部の競馬場がジョセフ厩舎所属馬の出走を認めない方針

を打ち出したことを受け、出走機会を奪われることを恐れた馬主が決断したものだ。転厩先となったのは、リチャード・ダットロウ厩舎だった。度重なる薬物使用の発覚により、10年間の資格停止処分を受けていてダットロウ師だったが、23年4月に停止期間が満了。再出発したダットロウ厩舎に移籍することになったのだ。

転厩初戦となったG1メトロポリタンH(d8F)で3着となった後、ホワイトアバリオはG1ホイットニーS(d9F)を6.1/4馬身差で快勝。ここでレーティング124を獲得したことで、同馬は世界ランキング・ダート部門の首位タイに立つことになった。

ホワイトアバリオはさらに、11月に行われたG1BCクラシック(d10F)にも優勝。3度目のG1制覇を果している。

今年に入り、権利の一部を、第2回サウジC勝ち馬ミシュリフなどの馬主として知られるサウジの王族プリンス・ファイサルが購買したホワイトアバリオは、2月24日のG1サウジCから、3月30日のG1ドバイワールドCに転戦することが発表されている。この会報が皆様に御手元にわたる頃、日本馬も多数出走するサウジCは既に終わっていることと思うが、果たしてどのような結果が出ているであろうか。